

姫路市都心部まちづくり構想 修正一覧表

市民の皆様からいただいたご意見及び姫路市都心部まちづくり構想検討懇話会からの提言等を参考とし、以下のとおり修正しました。

1 パブリック・コメントによるもの(4項目)

	修正する項目	修正内容	修正理由
1	(4) 姫路城を中心とするゾーン 城の景観保全と歴史的な雰囲気づくり (27ページ)	(追加) 城下町のなごりを留める道筋では、歴史的な雰囲気の漂う「歴史の道」として整備するとともに、 <u>町家等の歴史的建築物の保全を図り、町並みと道とが調和した一体感のあるまちづくりを推進します。</u>	歴史的な雰囲気を形成するには、歴史的建築物の役割が重要であると考えため。
2	歴史・伝統・文化を活かした国際観光都市づくり (27ページ)	(追加) 姫路城をはじめ、城周辺の文化施設、城下町の遺構や「ゆかたまつり」、「祭り屋台イベント」など姫路を象徴する歴史・伝統・文化などの資源を活用して <u>歴史的情緒を創出するとともに、城下町・姫路のイメージや都市の魅力を発信し、国の内外から人々が集い、交流し、賑わう国際観光都市づくりを進めます。</u>	城下町・姫路のイメージや都市の魅力を発信するには、歴史・伝統・文化などの資源を活用し、歴史性を感じさせる空間づくりが必要であると考えため。
3	(2) 姫路駅西地区整備構想 (37ページ)	(追加) JR 姫路駅の北西に位置し、山陽姫路駅に近接する <u>姫路駅西地区は、公共交通への利便性、人にやさしい回遊空間性、対面販売による卸・小売り店舗の存在等の立地特性を活用し、例えば播磨地域の食材が揃う播磨市場など、地域コミュニティが形成された、ふれあいと魅力のある地区として再生を促進します。</u>	姫路駅西地区の位置を記すとともに、地区の再生イメージを具体的に追加したため。
		(追加) <u>エントランスゾーンからの動線の確保に努め、来街者の回遊性を高めます。</u>	姫路駅西地区の活性化を図るうえで、同地区への来街者の誘導を図る必要があると考えため。
4	2 世界文化遺産姫路城を活かしたまちづくり (2) 国際観光都市をめざして (40ページ)	(追加) 市民一人ひとりがおもてなしの心を持ち、「また来てみたい」と思われるような都市となるようホスピタリティの向上に努めます。 <u>また、道路の清掃や立看板の簡易除去などを行い、まちの美観の保全を図ります。</u>	国際観光都市・姫路を構築するうえで、まちの美観保全が重要であると考えため。

2 姫路市都心部まちづくり構想検討懇話会からの提言等によるもの（16項目）

	修正する項目	修正内容	修正理由
1	<p>第3章 都心部まちづくりの目標と基本方針</p> <p>1 まちづくりの目標（13ページ）</p>	<p>（追加）</p> <p>世界文化遺産姫路城を擁する姫路市の都心部は、本市を代表する都市イメージを形成・発信するとともに、古来より播磨の商業・業務・交通の中心としての役割を果たしてきました。</p> <p>また、市民にとって買物や飲食はもとより文化や芸術などに触れ、出会いや楽しみの場となっており、充実した都市機能を提供するという役割も果たしてきましたが、近年、都心部を取り巻く環境や市民意識の変化などにより、その役割に陰りが見られるようになってきました。また、<u>郊外部における大規模店舗の進出、都心部における定住人口の減少や高齢化の進展などにより、活力が減退しつつあります。</u></p> <p><u>しかしながら、長い年月をかけて築き上げてきた鉄道・道路等の都市基盤や都心部ならではの機能を持つ施設、また、都心部で住み、働き、訪れる人々によって育まれた有形無形の貴重かつ大量な資産・資源を考慮すると、様々な都市機能が凝縮された都心部のさらなる活用が、圏域全体の活性化を導く重要な施策であると考えます。</u></p> <p><u>都心部のさらなる活用は、都心部でしかできない新たな事業を展開するチャンスをつくるとともに、訪れる魅力をさらに高め、市民や圏域住民のより豊かで生きがいのある生活を実現する有力な手段にもなると考えます。</u></p> <p>また、多くの資産・資源を備えた都心部の再生は、<u>集積された都市基盤・資源等の有効的な活用であるとともに、環境にやさしい持続可能なまちづくりに向けた取り組みであるとも考えます。</u></p>	<p>都心部のまちづくりの目標を示すにあたり、本市の都心部を取り巻く状況や都心部再生の重要性について、内容を追加したため。</p>
2	<p>第4章 都心部まちづくりの方向</p> <p>2 各ゾーンのまちづくりの方向</p> <p>(1) 都心部全体にかかわる事項</p> <p>快適な交通環境づくり（19・20ページ）</p>	<p>（追加）</p> <p><u>鉄道高架を契機とし、JR西日本・山陽電鉄、バス等の公共交通の乗り継ぎの利便性の向上に努めるなど、きめ細かな公共交通サービスの提供を促進します。また、バス路線網の再編や、都心部の交通拠点としての機能をさらに強化するとともに、市内外から都心部各地へのアクセスをさらに便利にするよう努めます。</u></p> <p>（追加）</p> <p><u>姫路駅周辺など都心中心部では、過度な自動車の流入を抑制し、歩いて楽しい、うるおいのあるまちづくりを進めます。このため、環状道路網の形成を図るなど道路の体系的な整備を進めるとともに、道路交通情報の提供や都心縁辺部における駐車場の配置等により、道路交通の円滑化に努めます。</u></p> <p>（追加）</p> <p><u>商業施設や交通結節点等における適正な駐車場の確保と放置自転車の防止により一層努めるとともに、自転車や歩行者が安全・安心に通行できる道路空間への改善に努めます。</u></p> <p>（追加）</p> <p><u>歴史的な景観に配慮した道路や歩道、人々が集う空間の整備などにより、楽しく快適な歩行環境を整備します。</u></p>	<p>快適な交通環境づくりを進めるうえで、交通拠点としての乗換の利便性や都心部と周辺地域とのアクセスの向上についても重要であると考えられるため。</p> <p>快適な交通環境づくりを進めるうえで、姫路駅周辺などにおいては、歩行環境の整備を図り、歩いて楽しいまちづくりを推進する必要があると考えられるため。</p> <p>快適な交通環境づくりを進めるうえで、自転車と歩行者が安全・安心に通行できる道路空間への改善が重要であると考えられるため。</p> <p>回遊性の向上を図るうえで、人々が集う空間づくりが必要であると考えられるため。</p>

	修正する項目	修正内容	修正理由
3	(2) 姫路駅を中心とするゾーン 播磨の中核都市にふさわしい顔づくり (22ページ)	(追加) 鉄道高架事業に伴い <u>拡大・再整備される新北駅前広場は、交通結節点機能の拡充はもとより、誰もが利用しやすい交流広場として、また、播磨の中核都市の顔としてふさわしい、機能とゆとり、うるおいを兼ね備えた空間として整備します。</u> (追加) <u>都市計画法による規制・誘導や民間の立地意欲を高める方策などに取り組み、新たな賑わいと活力の創出を図ります。</u>	播磨の中核都市にふさわしい顔づくりを進めるうえで、新北駅前広場に求められる機能等について、内容を追加したため。 播磨の中核都市にふさわしい顔づくりを進めるうえで、都市計画法による規制・誘導や支援方策が必要であると考えため。
4	もてなしの都市・姫路の拠点づくり (23ページ)	(追加) <u>鉄道高架事業に伴って生じる高架下は、自由通路等によって南北市街地の一体化を強化するほか、圏域住民、観光客の利便性向上のための機能を導入し、姫路駅周辺の拠点性向上に結びつけます。</u>	もてなしの都市・姫路の拠点づくりを進めるうえで、高架下空間の利便性を活かした空間づくりが重要であると考えため。
5	(3) 大手前通り・商店街を中心とするゾーン 感動と楽しさあふれる場づくり (25ページ)	(追加) 大手前通りはシンボルロードとして、城と調和した景観形成を図るとともに、歩道空間の活用など市民や来街者が安心して楽しく歩ける公共空間として、 <u>また、オープンカフェやイベントの導入等によるにぎわい空間としての活用を図ります。</u>	大手前通りについては、賑わいを創出する空間として活用する必要があると考えため。
6	3 都心整備イメージ (28ページ)	(追加) <u>都心部の対象区域において、都心部全体にかかわる事項、姫路駅を中心とするゾーン、大手前通り・商店街を中心とするゾーン、姫路城を中心とするゾーンのまちづくりの方向を踏まえ、長期的な視点に立った都心の整備イメージを示します。</u> <u>整備イメージ図</u>	各ゾーンのまちづくりの方向を踏まえ、都心部の整備イメージをより分かりやすく示すため。
7	第5章 都心部まちづくりの重点事業 1 播磨の中核都市、西播磨テクノポリスの母都市をめざしたまちづくり (1) キャスティ21 (29ページ)	(追加) キャスティ21は、広大な用地にわたること、鉄道高架事業や周辺道路整備の工程との関係で使用収益開始時期（建築物を建てることが可能になる時期）がゾーン、ブロックによって異なることから、段階整備が必要になると考えられますが、 <u>播磨の中核都市・姫路の役割を考えると、高次都市機能の拡充と玄関口の整備が最も重要な課題であるため、都心部全体への波及効果も期待できる、エントランスゾーンとコアゾーンの整備を優先します。</u>	播磨の中核都市としての役割等を鑑み、高次都市機能の拡充と新たな姫路の玄関口の整備を優先すべきであると考えため。
8	エントランスゾーン (31ページ)	(追加) 播磨の中核都市・姫路の玄関口にあたるこのゾーンは、 <u>姫路市を訪れる観光客を含む来街者がまず目にする光景であり、第一印象をあたえる重要な地区です。また、市民にとっても、都心部に来たというときめきと安らぎを感じたい地区です。このため、鉄道高架事業、姫路駅周辺十地区画整理事業、関連道路事業の整備スケジュールにあわせ、播磨の中核都市にふさわしい都市の顔として整備します。</u>	播磨の中核都市にふさわしい顔づくりを進めるにあたり、エントランスゾーンが来街者に与える印象等の重要性について、内容を追加したため。

	修正する項目	修正内容	修正理由
9	ア 新北駅前広場 (31ページ)	<p>(追加) 新北駅前広場についてはバスターミナルやタクシープールなどの交通施設の再整備をおこない、乗換えや移動の円滑化など、交通結節点機能の向上を図ります。</p> <p>(追加) 加えて、圏域で最も便利な場所としての立地条件はもちろん、現在の北駅前広場より格段に広い面積を活かして、市民や来街者が気軽に集い、交流し、ゆとりの時間を過ごせるよう、水や緑などを活用するなど、景観とうるおいに十分配慮した空間とします。</p> <p>(追加) また、駅構内や自由通路、接続する街路はもちろん、高架下、周辺の街区・建築物・地下街などと便利で快適に結ぶため、新北駅前広場敷地内に地下通路・地下広場や歩行者デッキを備えた、楽しい空間づくりを目指します。</p>	<p>新北駅前広場における交通結節点機能の向上について、具体的な内容を追加したため。</p> <p>新北駅前広場においては、水や緑などの活用により、市民や来街者が気軽に集い、交流できる空間づくりが必要であると考えたため。</p> <p>新北駅前広場における周辺街区との接続に対する考え方について、具体的な内容を追加したため。</p>
10	イ 新駅ビル (31ページ)	<p>(追加) 新駅ビルについては、播磨の中核都市・姫路の玄関口に位置することから、商業機能に加え、各交通機関間の乗換利便性、周辺街区との接続性、観光関連施設や市民サービス施設の導入、姫路城への眺望の確保、姫路の顔としてふさわしい景観の形成などに努めます。</p>	<p>播磨の中核都市・姫路の玄関口として、新駅ビルに求められる機能について、具体的に内容を追加したため。</p>
11	ウ 既存地下街 (31ページ)	<p>(修正) 既存地下街との連結については、<u>地下広場を基本に整備</u>について検討を進めます。</p>	<p>既存地下街については、地下広場と一体となった、魅力的な空間づくりが必要であると考えたため。</p>
12	エントランスゾーン 整備イメージ (32ページ)	<p>(追加) エントランスゾーンについて、北駅前広場を中心に整備イメージを示します。 イメージ図</p>	<p>エントランスゾーンの都市機能等を踏まえ、同ゾーンの整備イメージをより分かりやすく示すため。</p>
13	高架下 (33ページ)	<p>(追加) JR 山陽本線等連続立体交差事業により生じる高架下は、キャストィ21の区域には含まれませんが、エントランスゾーンやコアゾーンと一体となった機能導入が期待されています。 高架下には、駅施設、中央コンコースや南北市街地の一体化を強化する東西2箇所¹の自由通路の整備が計画されていますが、それ以外にも広大な空間が発生します。 高架下には商業施設等の立地も予想されますが、一部は公共利用ができることになっています。駅に近いなど便利な位置にある高架下を、都心部の活性化や市民・圏域住民、観光客の利便性向上などに活用します。</p> <p>ア 利便施設等の整備 公共利用する部分は、南北市街地の接点に位置し、駅や新北駅前広場に近いという立地特性を活用し、利便施設(駐車場、駐輪場、案内施設など)や、駅前広場の交通機能を補完する施設等を整備します。</p> <p>イ 観光案内所、地域物産コーナーの整備 姫路を訪れる観光客や来街者のための観光案内所や地域物産コーナーを整備します。整備にあたっては、観光客や来街者が行きやすく、わかりやすい場所を選定するとともに、姫路らしさを感じることができるよう配慮します。</p>	<p>鉄道高架事業に伴い、新たに発生する高架下は、交通の利便性も高く、南北市街地の一体化を強化する重要な空間であり、新たに重点事業に位置付けるとともに、高架下に求められる具体的な機能等について、内容を追加したため。</p>

	修正する項目	修正内容	修正理由
14	コアゾーン (34ページ)	(追加) エントランスゾーンに隣接するこのゾーンは、都市基盤整備により新たな街区を形成し、魅力ある商業施設や付加価値の高い都市的サービス産業など播磨の中核都市という広い利用圏を対象とした、新たな高次都市機能が集積する商業・業務拠点として期待される、 <u>都心部や市民にとってかけがえのない価値を持つゾーン</u> です。	コアゾーンに求められる機能や重要性について、内容を追加したため。
15	ア 早期かつ段階的な土地利用の促進 (34ページ)	(追加) 姫路駅周辺土地区画整理事業により、新たな高次都市機能の集積にふさわしい <u>都市基盤整備を進め、基盤整備が完了して利用できるようになったブロックから速やかに活用をおこない、都心部再生の効果を早期に得るなど、段階的な土地利用を促進</u> します。	コアゾーンについては、速やかな土地利用を促進し、事業効果を早期に得ることにより、都心再生を推進する必要があると考えるため。
16	(3) 都心部の道路整備 (38ページ)	(追加) 通過交通の抑制や過度な流入交通の抑制等による都心交通の円滑化と安全で快適な歩行者動線の確保を図るため、JR 姫路駅を中心に内々環状、内環状及び中環状を骨格とする幹線道路網を構築します。特に内々環状の内側は、 <u>地区全体として歩いて楽しいまちと位置づけ、通過交通が流入しにくい道路形態とするなど、自動車の流入を抑制する方策の導入を検討</u> します。	特に、内々環状線内においては、自動車の通過交通を抑制し、快適な歩行空間を確保する必要があると考えるため。
		(追加) 国道2号等の一方通行解除に向けて、 <u>道路整備などに努めるとともに、要望活動を積極的に推進し、一方通行解除に努めます。なお、当面は関連道路の整備状況を勘案しつつ、適切な交通処理をおこないます。</u>	一方通行の解除に向けた取り組みを進めるとともに、当面は適切な交通処理が必要であると考えため。